

第2章 事業概要

1. 事業の内容

- 1 食肉検査……生体検査、内臓検査、枝肉検査
- 2 食鳥検査……生体検査、脱羽後検査、内臓摘出後検査
- 3 精密検査……細菌検査、病理検査、理化学検査、ウイルス検査
- 4 衛生検査……監視指導、ふきとり検査、講習会の開催

2. 食肉関係

衛生対策

と畜場内の細菌検査結果、衛生管理マニュアル等を基に衛生指導、監視を行った。県食品衛生監視指導計画に基づき併設食肉処理場の監視を実施している。

健康な家畜の搬入、生産段階からの衛生管理の徹底を図るため、生体の汚染状況、疾病の発生状況について生産者及び臨床獣医師に情報をフィードバックしている。

また、と畜場法により衛生管理責任者及び作業衛生責任者の設置が義務付けられたため、講習会を実施した。

と畜検査の推移

処理頭数は、豚、馬はほぼ前年度並み、牛は素牛価格の高騰、出荷適齢牛の減少等の影響を受け大幅に減少した。

廃棄状況については、全部廃棄は豚では敗血症が、牛では敗血症及び腫瘍が多く、一部廃棄は豚ではSEPが、牛では鋸屑肝が多かった。

(1) 年度別食肉検査状況

年度	区分	牛	とく	馬	豚	緬山羊	計
12年		8,957	36	572	37,606	2	47,173
13年		6,403	15	501	31,338	3	38,260
14年		9,648	5	485	34,479	0	44,617
15年		9,103	85	481	36,903	0	46,572
16年		7,885	136	455	37,185	0	45,661
17年		6,459	94	439	36,609	1	43,602

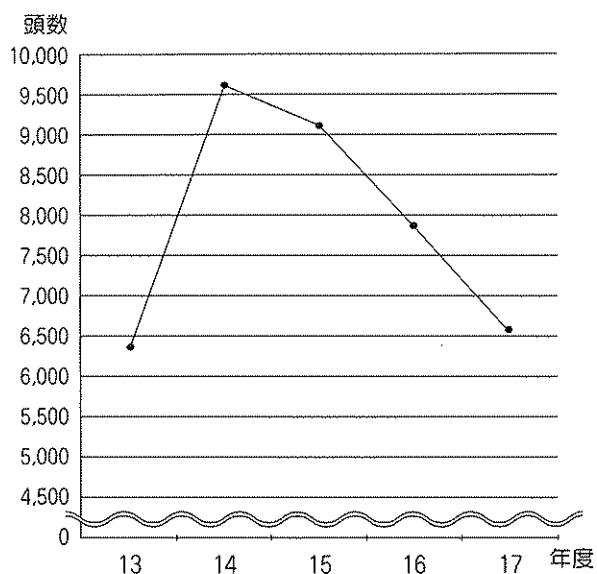
(2) 平成17年度と畜場別検査頭数

処理場名	畜種	開場日数	肉用牛	乳用牛	とく	馬	豚	緬羊	山羊	合計
（株）山梨食肉流通センター		249	1,631	4,828	94	439	36,594	1	0	43,587
山梨県畜産試験場		7					15			15
合計		256	1,631	4,828	94	439	36,609	1	0	43,602

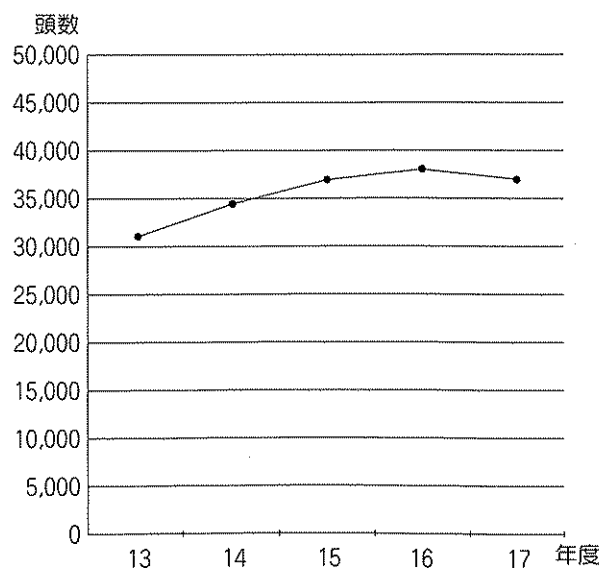
(3) 月別検査頭数

月	区分	牛	とく	馬	豚	緬羊	山羊	合計
4		578	8	45	2,901	0	0	3,532
5		477	16	25	2,791	0	0	3,309
6		406	8	34	2,773	0	0	3,221
7		577	7	36	2,375	0	0	2,995
8		575	6	45	2,701	0	0	3,327
9		522	17	41	3,093	0	0	3,673
10		555	8	32	3,244	0	0	3,839
11		687	5	29	3,471	0	0	4,192
12		605	2	57	3,638	0	0	4,302
1		518	8	24	3,114	0	0	3,664
2		484	3	32	2,960	0	0	3,479
3		475	6	39	3,548	1	0	4,069
合計		6,459	94	439	36,609	1	0	43,602

■牛検査頭数の推移



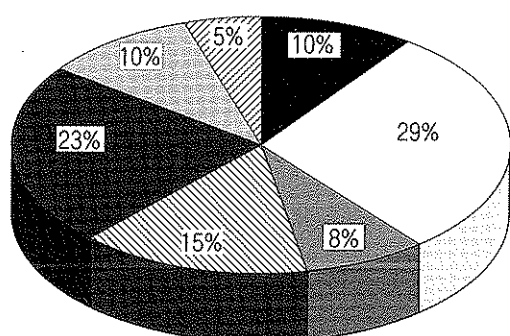
■豚検査頭数の推移



(4) とさつ禁止、廃棄状況

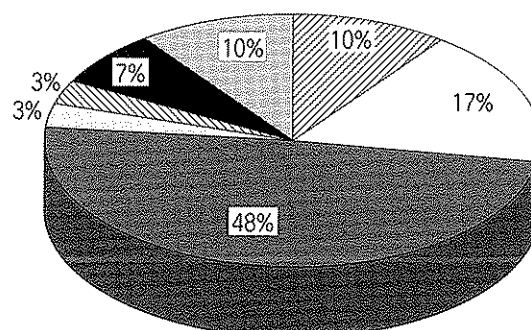
畜種 区分 病類別	牛			とく			馬			豚			緬山羊		
	禁 止	全 部 廃 棄	一 部 廃 棄	禁 止	全 部 廃 棄	一 部 廃 棄	禁 止	全 部 廃 棄	一 部 廃 棄	禁 止	全 部 廃 棄	一 部 廃 棄	禁 止	全 部 廃 棄	一 部 廃 棄
実頭数	0	48	2,919	0	0	51	0	0	54	0	29	25,714	0	0	0
豚丹毒											3				
トキソプラズマ病															
寄生虫病			21									19			
膿毒症		5									5				
敗血症		14									14				
尿毒症		4									1				
黄疸		7	7								1				
水腫			63			1									
腫瘍		11	3								2				
放線菌症			5												
炎症または炎症産物による汚染		5	1,984			44			47			24,732			
変性または萎縮			427			5			3		3	23			
その他		2	910			1			7			1,506			
計	0	48	3,420	0	0	51	0	0	57	0	29	26,280	0	0	0

■牛全部廃棄状況



■膿毒症 □敗血症 ■尿毒症 ▨黄疸
 ■腫瘍 ■炎症 ▨その他

■豚全部廃棄状況



▨豚丹毒 □膿毒症 ■敗血症 □黄疸
 ▨尿毒症 ■腫瘍 ■変性

(5) 病名別一部廃棄状況

病名		畜種	とく	牛	馬	豚	
循環器系	心 外 膜 炎		1	85		1,067	
	心 内 膜 炎						
	心 筋 変 性		1	2			
	心 筋 炎						
	心 水 腫		1	4			
	心 弁 膜 血 腫						
	心 室 中 隔 欠 損						
	心 肥 大						
	脾 腫						
	脾 腫 瘍						
リンパ筋膿瘍					8		
リンパ節炎					174		
体腔	腹 膜 炎		3	30		9	
	汎 漿 膜 炎			1		981	
呼吸器系	鼻 炎					67	
	肺 炎	S E P 型				16,102	
		胸 膜 炎 型	3	8		2,874	
		膿 瘍 型		10		114	
		そ の 他	38	68	1	1,088	
	血 液 吸 入 肺					1,088	
	肺 氣 腫			24			
舌 炎				3			
消化器系	胃 炎		1	195			
	胃 潰 瘍						
	胃 膿 瘍			5			
	創 傷 性 胃 炎			1			
	第 四 胃 變 位			3			
	胃 腸 炎			4			
	小 腸 炎			31	1	195	
	大 腸 炎		1	73		70	
	抗 酸 菌 症					1,091	
	腸 氣 泡 症					33	
器系	胃 ア ト ニ 一 鼓 脹 症						
	へ ル ニ ア 腸 捻 転 肛 脱			1		5	
	周 圍 脂 肪 壊 死			65			
	ヨ 一 ネ 病						
	肝 炎	鋸 屑 肝 膿 瘍 型		5	872	1	6
		肝 硬 變 型		1	273		254
		間 質 炎 型		1	12		5,750
		包 膜 炎 型		3	293	5	214
		胆 管 炎 型		1	229	2	
		そ の 他		5	119	1	155
肝 變 性		6	398		6		
肝 富 脈 斑			609				
ニ ク ズ ク 肝			2				
肝 砂 粒 症					36		
好酸球性増殖性小葉間静脈炎			6				
脂 肪 肝			10				
血 管 炎							
囊 胞 肝							

病名		畜種	とく	牛	馬	豚	
泌尿	腎炎	出血型	8	3		15	
		結石型		1			
		ターキーエッグ型					
		膿瘍型		2		1	
		腎盂炎型				3	
		間質炎型		2		90	
		その他	1	7		118	
		水腎症		1			
生殖	腎梗塞					22	
	嚢胞腎			2		252	
	萎縮腎						
	腎盂拡張症					14	
殖	周囲脂肪壊死			161			
	膀胱炎			1			
	膀胱破裂						
器	膀胱結石						
	子宮捻転			1			
	子宮内膜炎			7			
	子宮蓄膿症						
系	子宮脱・膣脱						
	後産停滞						
	乳房炎	膿瘍型					
		壊疽性					
その他				32			
運動	放線菌症			6			
	筋肉出血	3		174	5	116	
	筋肉変性	2		251	1	3	
	筋肉膿瘍	1		81		326	
	関節炎			57		19	
	骨折	1		12	2	8	
	脱臼			32		1	
	蹄病						
	脊椎膿瘍					1	
	筋肉水腫			66			
	外傷			1			
	手術創			81			
	皮下膿瘍			6			
皮下出血			108	3			
腱断裂			2				
寄生虫	肝蛭症			22			
	豚肺虫症					19	
	エキノコックス						
腫瘍	黒色腫						
	乳頭腫						
	リンパ腫						
	その他				1		
その他	リポフスチン沈着症			38			
	横隔膜水腫			35			
	横隔膜膿瘍			19			
	滑膜膿腫			8			

3. 食鳥関係

大規模食鳥処理場において食鳥処理法に基づく検査を行うとともに、近年鶏の伝染病で大きな問題となっている高病原性鳥インフルエンザについて対応を協議した。

また、山梨県監視指導計画に基づき、ふきとり検査結果等による食鳥処理場及び併設する食肉処理施設の監視指導、動物用医薬品を対象とした収去検査を実施した。

さらに、サルモネラ及びカンピロバクターの保菌調査や食鳥検査結果等のフィードバックを定期的に行うとともに家畜保健衛生所と検討会を開催して、生産サイドとの連携を強化した。

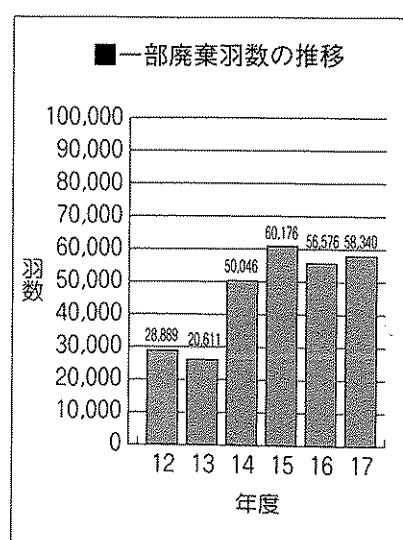
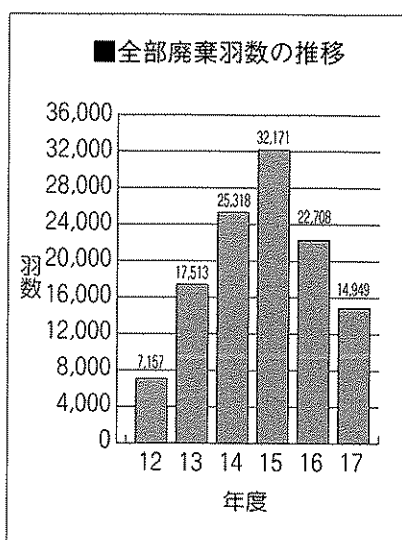
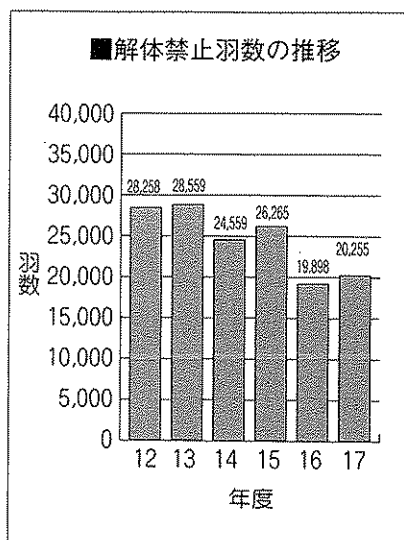
(1) 年度別検査羽数及び廃棄状況

年度別検査羽数

項目 \ 年度	12	13	14	15	16	17
出荷羽数	2,864,551	3,058,335	3,273,375	3,384,597	3,321,273	3,504,168
へい死羽数	3,467	4,656	5,081	5,983	4,819	6,249
検査羽数	2,861,084	3,053,679	3,268,294	3,378,614	3,316,454	3,497,919

年度別廃棄状況

項目 \ 年度	12	13	14	15	16	17
解体禁止羽数	28,258	28,559	24,559	26,265	19,898	20,255
全部廃棄羽数	7,157	17,513	25,318	32,171	22,708	14,949
一部廃棄数	28,889	20,611	50,046	60,176	56,576	58,340

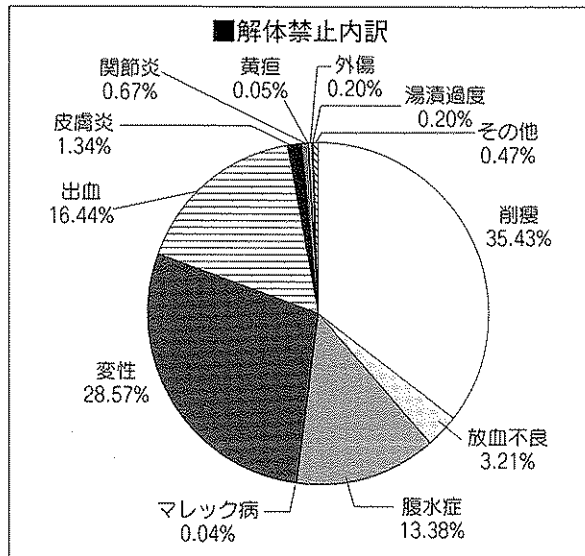


(2) 平成17年度検査結果

解体禁止													解体禁止合計
削瘦	放血不良	腹水症	マレック病	変性	出血	皮膚炎	ブドウ球菌症	関節炎	黄疸	外傷	湯漬過度	その他	
7,176	650	2,711	9	5,787	3,330	272	0	135	10	40	40	95	20,255

解体禁止は0.58%（解体禁止羽数／検査羽数）で、前年度とほぼ同様であった。

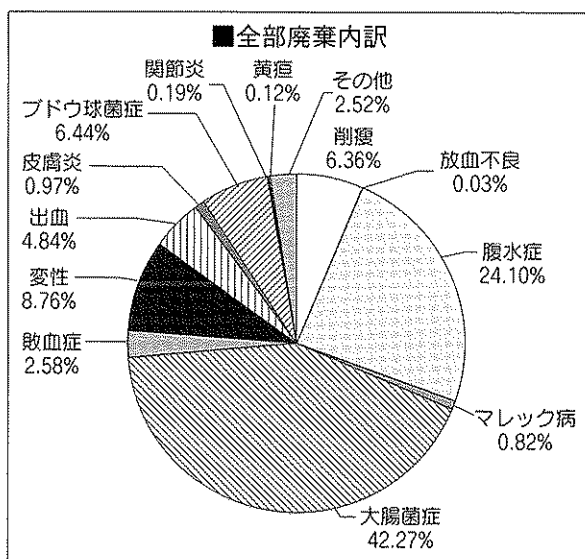
主な原因は、削瘦（発育不良）、変性、出血、腹水症で、削瘦と出血の割合が増加した。



全部廃棄													全部廃棄合計
削瘦	放血不良	腹水症	マレック病	大腸菌症	敗血症	変性	出血	皮膚炎	ブドウ球菌症	関節炎	黄疸	その他	
951	5	3,603	122	6,319	385	1,310	724	145	962	29	18	376	14,949

全部廃棄は0.43%（全部廃棄羽数／検査羽数）で、前年度より減少した。

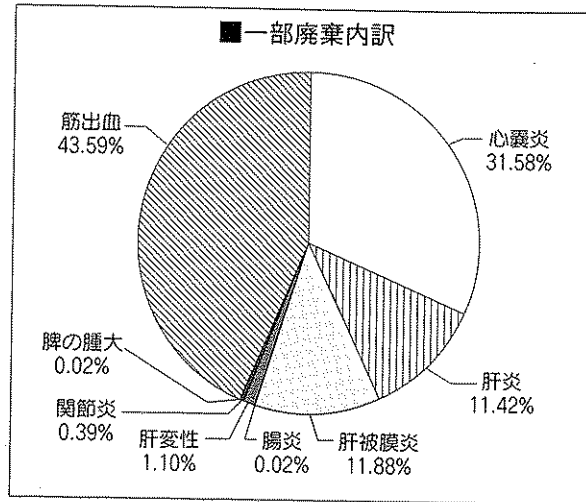
主な原因は、大腸菌症、腹水症、変性で、腹水症の割合が増加した。



一 部 廃 棄																一部廃棄合計
心囊炎	気囊炎	肝炎	肝被膜炎	肝変性	脾の腫大	腎炎	腸炎	コクシジウム	関節炎	筋出血	骨折	皮膚炎	膿瘍	腫瘍	その他	
18,422	0	6,665	6,930	640	10	0	10	0	229	25,433	0	0	0	0	1	58,340

一部廃棄は1.67%（一部廃棄羽数／検査羽数）で、前年度とほぼ同様であった。

主な原因は、筋出血、心囊炎、肝被膜炎、肝炎で、筋出血の割合が増加した。



4. 精密検査関係

疾病排除を目的とした各種疾病診断、微生物汚染防止のためのふきとり検査および保菌調査、有害物質排除のための残留抗菌物質検査を実施した。また、GLPの導入をはかり、業務管理要領にもとづいた検査を行い信頼性の確保に努めた。

(1) 精密検査実施状況

検査室名	区分	行政検査			調査研究			合計		
		検査頭数	検体数	検査数	検査頭数	検体数	検査数	検査頭数	検体数	検査数
理化学検査室	食肉関係	441	867	7,631	1	4	4	442	871	7,635
	食鳥関係	1,200	21	255	2	6	10	1,202	27	265
	小計	1,661	888	7,886	3	10	14	1,664	898	7,900
病理検査室	食肉関係	68	302	645	47	47	51	115	349	696
	食鳥関係	10	19	38	2	2	2	12	21	40
	小計	78	321	683	49	49	53	127	370	736
細菌検査室	食肉関係	452	883	4,123	200	200	1,443	652	1,083	5,566
	食鳥関係	434	107	870	3,320	332	1,992	3,754	439	2,862
	小計	886	990	4,993	3,520	532	3,435	4,406	1,522	8,428
ウイルス検査室	食肉関係	12	106	106	124	124	124	136	230	230
	食鳥関係	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	小計	12	106	106	124	124	124	136	230	230
BSEスクリーニング検査	牛	6,553	6,559	6,559				6,553	6,559	6,559
小計	食肉関係	7,526	8,717	19,064	372	375	1,622	7,898	9,092	20,686
	食鳥関係	1,644	147	1,163	3,324	340	2,004	4,968	487	3,167

(2) 各検査室における検査内容

理化学検査室

血液検査を全自動血球計数器とドライケムを用いて実施し診断の参考とした。
平成17年度畜水産食品の残留有害物質モニタリング検査を行った。

【行政検査】

検査内容	畜種	検査頭数	検体数	検査数
黄疸判定	牛	14	30	161
	豚	1	1	1
尿毒症の判定	牛	8	47	145
	豚	1	3	3
血液検査	牛	383	722	6,468
	馬	1	1	10
	豚	0	0	0
合成抗菌剤	牛	15	30	420
	豚	15	30	420
	鶏	900	18	252
フルベンダゾール	豚	3	3	3
	鶏	300	3	3
合計		1,641	888	7,886

【調査研究】

調査内容	畜種	検体数	検査数
外部精度管理（フルベンダゾール）	鶏	1	5
内部精度管理（フルベンダゾール）	鶏	5	5
合成抗菌剤一斉分析の手技習得	豚	4	4
合計		10	14

病理検査室

食肉及び食鳥検査において病理組織学的検査が必要と認められる疾病が発見された場合、検査を行い診断の一助としている。

【行政検査】

検査内容	畜種	検査頭数	検体数	検査数
炎症	牛	9	25	52
	豚	24	135	292
	馬			
	鶏	5	10	20
変性	牛	1	1	2
	豚			
	馬	1	4	12
	鶏	4	9	18
腫瘍	牛	10	80	169
	豚	3	16	34
	馬	1	2	4
	鶏			
奇形	牛			
	豚	2	2	4
	馬			
	鶏			
その他	牛	6	13	28
	豚	12	24	48
	馬			
	鶏			
合計		78	321	683

【調査研究】

検査内容	畜種	検査頭数	検体数	検査数
病理研究会	牛	24	24	27
	豚	11	11	11
	馬	12	12	13
	鶏	2	2	2
合計		49	49	53

生物科学検査室（細菌）

解体後の検査において細菌性の疾病を疑った場合、病原菌の分離・同定等の微生物検査を実施するとともに食肉関係（O157）・食鳥関係（サルモネラ・カンピロバクター）施設および輸送車のふきとり検査を実施して衛生指導に活用した。

【行政検査】

検査内容	畜種	検査頭数	検体数	検査数
敗血症の検査	牛	15	92	192
	豚	18	104	220
	鶏	0	0	0
関節炎型豚丹毒の検査	豚	15	43	129
O157ふきとり検査（枝肉）	牛	100	200	1,215
ふきとり検査 （枝肉、枝肉又は食鳥と体、施設）	牛	67	72	588
	豚	83	88	734
	鶏	279	24	291
	食肉関係	24	24	25
	食鳥関係	65	65	471
残留抗菌性物質モニタリング検査	牛	15	30	180
	豚	15	30	180
	鶏	90	18	108
厚労省枝肉ふきとり検査	牛	35	70	300
	豚	35	70	300
厚労省GFA P検査	牛	30	60	60
合計		886	990	4,993

【調査研究】

検査内容	畜種	検査頭数	検体数	検査数
カンピロバクター保菌調査	鶏	1,660	166	830
サルモネラ保菌調査	鶏	1,660	166	1,162
O157保菌調査	牛	66	66	569
敗血症原因菌性状試験	牛	78	78	585
STEC性状試験	牛	56	56	289
外部精度管理	SPC、サルモネラ属菌同定	3	3	15
内部精度管理	O157、サルモネラ属菌同定	13	13	62
合計		3,536	548	3,512

敗血症及び豚丹毒による処分頭数の年計推移

処分理由	動物種	H5	H6	H7	H8	H9	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17
敗血症	牛	3		3	3	3	3	3	7	4	4	12	24	14
	とく		1										2	0
	馬				1									0
	豚	3	6	1	5	4	9	2	1	1	2	8	10	15
豚丹毒	豚	21	12	7	10	11	14	46	17	4	15	20	24	3

生物科学検査室（ウイルス）検査室

ウイルス検査室ではPCR法を用いて牛の白血病について補助的な診断を行った。

【行政検査】

検査内容				畜種	検査頭数	検体数	検査数
B	V	D	V	牛	12	106	106
合計					12	106	106

【調査研究】

検査内容					畜種	検査頭数	検体数	検査数
B	V	D	V	検査法	牛	4	4	4
H	E	V	調査		豚	120	120	120
合計						124	124	124

5. 衛生指導

消費者の食肉に対する安全・安心の関心により、食肉・食鳥処理施設での衛生管理の必要性が高まっている。

このため、各処理場において定期的にふきとり検査を実施するとともに監視指導の強化、従事者の衛生教育等を実施した。県食品衛生監視指導計画に基づき、併設食肉処理業の監視を実施した。

また、衛生管理を主体とした管理マニュアルを基に衛生指導を行い、微生物汚染防止に努めた。

情報紙「食肉衛生検査所だより」の発行と生産農家への検査データのフィードバック事業を実施した。

(1) 処理施設の汚染調査及び監視指導

*各施設のふきとり検査 2,109検査

(一般生菌・大腸菌・サルモネラ・カンピロバクター・ブドウ球菌)

*各施設の監視指導

区 分	監視数
と畜場・食鳥処理場	538
食肉処理業	96

(2) 食肉関係者に対する講習会の開催

- ・食肉処理場における衛生管理
- ・汚染調査結果について
- ・食品取扱者の衛生管理
- ・食鳥肉の衛生対策について
- ・食鳥処理場従業員の衛生教育について

(3) 検査データフィードバック事業関係

対象 豚生産農家 18農家
食鳥生産農家 25戸

(4) 食肉・食鳥処理場衛生推進運動の実施

- *食肉輸送車・施設のふきとり検査 179検体 537検査 (輸送車 45台)
- *消費者に対する食肉セミナーの開催
- *ポスターの掲示
- *施設の衛生チェック
- *従事者に対する講習会
- *自主管理体制の点検

6. 研 修

関係機関が開催する各種の県外研修に参加し、検査員の資質向上を図った。

また、基礎的知識、技能の習得のため、所内研修会を実施した。

月 日	出張 内 容	場 所
2005/ 5 /12~13	第51回全国食肉衛生検査所協議会病理部会研修会	神奈川県
6 /17	第239回鶏病事例検討会	茨城県
7 / 6~7	(株)島津製作所第486回 HPLC 入門講習会	神奈川県
7 / 6~8	食肉衛生検査所業務視察研修 (沖縄中央食肉衛生検査所)	沖縄県
8 /22~23	バイオカレッジ京都 PCR 研修	京都市
9 / 9	全国食品衛生監視員協議会第45回関東ブロック研修会	長野市
9 /16	第240回鶏病事例検討会	茨城県
10 / 7	第23回全国食肉衛生検査所協議会理化学部会総会・研修会	宇都宮市
10 /27~28	平成17年度全国食品衛生監視員研修会	東京都
11 /10~11	第52回全国食肉衛生検査所協議会病理部会研修会	神奈川県
11 /10~11	第26回日本食品微生物学会学術総会	金沢市
11 /25	第25回全国食肉衛生検査所協議会微生物部会総会・研修会	横浜市
12 /16	第240回鶏病事例検討会	茨城県
2006/ 1 /16~18	平成17年度食肉衛生技術研修会・衛生発表会	東京都
1 /23~24	平成17年度食鳥肉衛生技術研修会・衛生発表会	東京都
2 /15	平成17年度関東甲信越地区鶏病技術研修会	宇都宮市
3 /15	高病原性鳥インフルエンザ研修	水戸市

平成17年度 所内研修

- | | | |
|-----|---|--------|
| 第1回 | 担当、検査室別連絡確認事項 | 5月17日 |
| 第2回 | 食肉・食鳥先進地視察 復命研修 | 8月10日 |
| 第3回 | 関ブロ業績発表会 予演
「牛の腸管出血性大腸菌 O 157の保菌状況と分離株の性状について」 | 10月11日 |
| 第4回 | 公衆衛生発表会予演
「高病原性鳥インフルエンザの対策について」 | 2月7日 |
| 第5回 | 食肉・食鳥衛生技術研修復命 | 3月15日 |